1.

2.

岐阜県美術館では、2021年1月30日から、特別展「ロートレックとその時代」を開催します。

洋の東西を問わず19世紀末は、人々がそれぞれの枠を超えて複雑に入り組み、錯綜しながら、新しい世界の到来を望み、動きはじめた時代でした。フランスの画家アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック(1864-1901)は、この大きく社会が変革した時代に、大胆な色づかいとダイナミックな構図で、時代の先端を行く印刷技術を駆使したポスターを発表し注目を集めました。その作品は今につながる芸術の都パリのイメージとして知られています。

本展覧会は、オディロン・ルドン、ロートレック、ナビ派など19世紀末パリを舞台に活躍した近代画家の作品をコレクションする岐阜県美術館と三菱一号館美術館との共同企画として実現しました。展覧会は、お雇い外国人として来日したイギリスの建築家ジョサイア・コンドルが設計した三菱第一号館が建てられた、日本が近代国家へと発展を遂げる1894(明治27)年という時代を基軸に展開します。そしてロートレックの作品を中心としながら、ルドンやモロー、モネ、ルノワール、さらにフランスで学んだ山本芳翠など、日本とフランスにおける美術の動向を紹介します。

芸術が時代を象徴する顔として世界を行き交った19世紀末、パリと東京を舞台に日仏の画家たちが夢みたVisions=“かぐわしき未来”としての理想像をたどっていきます。

3.

4.

充分に見た。ヴィジョンはあらゆる大気に見いだされた。
充分に持った。街のざわめき、夕暮、また太陽の下、
いつも変わらず。
充分に知った。人生の中断。
――《ざわめき》と《ヴィジョン》よ!
出発だ、新しい愛情とひびきのなかへ!

――アルチュール・ランボー、1892年*1

8.

ロートレックと世紀末パリ

19世紀半ば以降の都市改革で現在に至る街の姿が形成されたパリでは、数年毎に万国博覧会が開催され、新しい時代に向けて近代化が加速していきました。電灯が街を照らし、整備された道路には自転車や自動車が走り始め、鉄道の開通は地方と都市を結びつけ、互いの文化の融合を進めました。急速な近代化は、一方では地主や貴族や資本家等の上層階級と、労働者等の下層大衆層における貧富の差を拡大させ、地区ごとの分断を生じさせました。その中でパリを囲む城壁の外に位置するモンマルトルは、カフェ=コンセールやダンスホールが軒を連ね、様々な社会階層が集まり賑わう(ビ)特別な街となり、その雰囲気に魅了された多くの芸術家がこの地を活動拠点としました。

1881年、法律改正により多くの検閲規制が解かれ、公的な場所以外でのポスター掲示が自由になると、カラー・リトグラフによる色彩豊かなポスターが街中を飾り始めます。画家として活動していたロートレックは、モンマルトルを中心に勃興した新しい大衆文化を敏感に感じ取り、歓楽場「ムーラン・ルージュ」のために1891年に大型ポスター《ムーラン・ルージュ、ラ・グーリュ》を制作します。鋭い人物観察に基づく形態模写とデフォルメされた大胆な構図による配色効果を駆使したポスターは、絵を読ませる視覚的効果を創り出し、人々の注目を集めました。アリスティド・ブリュアンやジャヌ・アヴリルら歌手や踊り子から裏町に住む娼婦まで、変わりゆく世紀末のパリに生きる人々の悲喜や美醜を表したその作品は、時代を表したVisionsとして今もなおパリの街とともに人々の憧れの存在となっています。

20世紀の幕開けを目前に芸術の在り様も変貌し始めます。オディロン・ルドンはそれまでの石版画や木炭による黒の世界から、1890年頃より幻想的な色彩作品へと向かいます。またこの頃にはルドンやゴーギャン、ロートレックらが参加した創作版画集『レスタンプ・オリジナル』(1893-95)も刊行されました。これには他にもピサロやルノワール、ヴァロットンらが印象派やナビ派等のグループの枠を超えて参加しています。彼等は皆、美術学校での指導や、伝統的な画法による作品で画壇を牽(けんい)引していたジェロームやコルモンらの私設アトリエで学ぶところから出発し、自らが理想とする美の姿を求め、領域や世界を横断して活動しました。国際都市へと変貌を遂げるパリに渡仏した山本芳翠もまた、ルドンと同じくジェロームに師事し、本場の油彩画を学びました。

5.

6.

1. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック《悦楽の女王》1892年
2. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック『ドイツのパピロン』1894年
3. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック『彼女たち』(ポスター) 1896年
4. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック『彼女たち』(座る女優たち)第一シャユーカオ篇』1896年
5. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック《赤色の鉛人面のある枝歌詞》1893年
6. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック《コンフェッティ》1894年
7. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック『ニグランディーヌ展一番』1896年
8. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック『アリスティド・ブリュアン、歌のキャバレーにて』1893年
9. アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック《ディヴァン・ジャポネ》1893年

(全て:三菱一号館美術館蔵)

a. *La Tour Eiffel - Effets de projection*, E. Monod, *L' Exposition universelle de 1889*, Paris, E. Dentu Éditeur, 1890

b. *La Rue Saint-Louis-en-l'Ile*, *LE BEAU PAYS DE FRANCE. PARIS. PARIS EN PLEIN AIR*, Paris,Bibliothèque Universelle en Couleurs, 1897

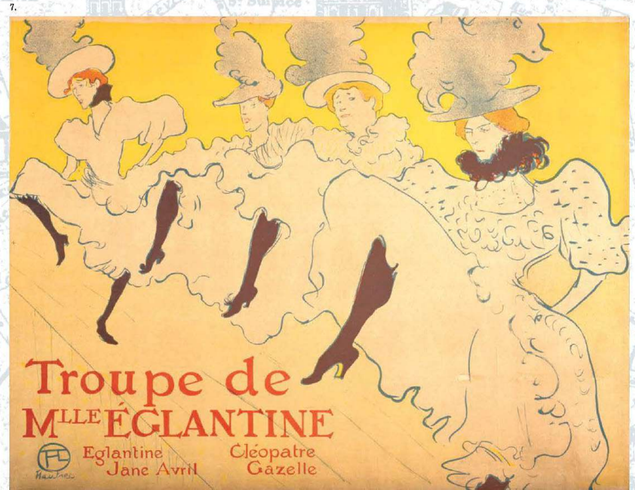
c. *Boulevard Montmartre. Coin de la rue Richelieu*, *LE BEAU PAYS DE FRANCE. PARIS. PARIS EN PLEIN AIR*, Paris,Bibliothèque Universelle en Couleurs, 1897

*1. マルセル・プルースト、井上究一郎訳『失われた時を求めて5 第三篇 ゲルマントのほうII』ちくま文庫、1993年、p.31

*2. アルチュール・ランボー、鈴木和成訳『ランボー全集 個人詩集』みすず書房、2011、p.383

*3. マルティーヌ・シャザル、坂上敦子訳『光の詩―シャルル・ノディエ―』『パリ―1900 ベル・エポックの輝き』(世界文化社刊、光文社古典新訳文庫)、2004、pp.229-230

7.



ロートレックとその時代 ―西洋編―

1864 11月4日、アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック、南仏アルビの貴族の家系に生まれる。オディロン・ルドン、パリでジャン=レオン・ジェロームに師事する。

1865 ルドン、ジェロームのアトリエを去り、故郷フランス西南部のボルドーに戻る。パリに最初の百貨店プランタンが開店する。アメリカで南北戦争が終結する。

1867 パリ万国博覧会開催。フランス軍事顧問団、横浜に到着する。

1870 フランス、プロイセンに宣戦布告し普仏戦争始まる。

1871 パリ=コミューン。フランス敗北で普仏戦争終結、アルザス・ロレーヌを割譲する。

1872 岩倉具視を特命全権大使とする使節団がパリに到着、エリゼ宮で接遇を受ける。ルドン、ボルドーからパリに転居する。トゥールーズ=ロートレック一家、アルビからパリに転居する。

1873 ウィーン万国博覧会開催。ナポレオン三世没。

1874 カミーユ・ピサロ、クロード・モネ、ポール・セザンヌ、ピエール=オーギュスト・ルノワール、エドガー・ドガら、第1回印象派グループ展を開催。株式仲買人をしていたポール・ゴーギャン、アカデミー・コラロッシに通い始める。

1875 パリにオペラ座が落成する。エドガー・ポー『大鴉』仏語版が刊行される(ステファーヌ・マラルメ翻訳、エドゥアール・マネ挿画)。第2回印象派展開催。

1876 フィラデルフィア万国博覧会開催。エディソン、蓄音機を発明する。ダーウィン、『種の起源』最終版を刊行する。第3回印象派展開催。

1878 パリ万国博覧会開催。パリ万国博覧会事務局に雇われ松方正義一行と渡仏していた山本芳翠、ジェロームに学ぶ(1887年帰国)。

1879 フランス第三共和政、「ラ=マルセイエーズ」を国歌に制定する。ロートレック、昨年の左大腿骨骨折に続き右大腿骨骨折。以後両足の発育が止まる。この年、ルドンは最初の石版画集『夢のなかで』を発表する。ゴーギャン、第4回印象派展に初参加し彫刻を出品、印象派の画家と交流する。

1880 ブリュッセル万国博覧会開催。フランスで7月14日(バスチーユ占領と連盟祭の記念日)が国民祭の日に制定。フランス、タヒチを領有する。第5回印象派展開催。

1881 芸術家たちが作品を発表する伝統的なサロンが解体し、フランス芸術家協会に改組、ジェローム、レオン・ボナら審査員となる。フランスで集会と出版の事前許可制が廃止される。この年パリでは国際電気博覧会が開催され、エディソンによるフィラメントに日本の竹を利用した白熱電球が話題となる。パリの大通りには電灯が設置される。モンマルトルに「シャ・ノワール」開店。

1882 第6回印象派展開催。
夏、パリで腸チフス流行。ロートレック、モンマルトルにあるボナのアトリエに入門。その後フェルナン・コルモンのアトリエに移る。コルモンのアトリエでエミール・ベルナールらに出会う。第7回印象派展開催。フランス、ハノイを占領。

1883 アムステルダム国際植民地貿易博覧会開催。ポール・ゴーギャン、前年の株大暴落をうけ、画家への転向を決心する。ヨーロッパ発の大陸横断鉄道オリエント急行がパリ―イスタンブール間で運行を開始する。

1884 黒田清輝、フランスの法律制度を学ぶため渡仏する(1893年帰国)。フランス、清に勝利(清仏戦争)。ジョルジュ・スーラ、ポール・シニャック、ルドン、独立芸術家協会設立。J.-K.ユイスマンスが小説『さかしま』でギュスターヴ・モローとともにルドンを紹介する。この年、医師・細菌学者のコッホ、コレラ菌を発見する。ロートレック、モンマルトルに移る。同じ建物にはドガがアトリエを構えていた。

1885 アントワープ万国博覧会開催。詩人・小説家ヴィクトル・ユゴー没、国葬によりパンテオンに埋葬される。「シャ・ノワール」が移転し、跡地に歌手アリスティド・ブリュアンがキャバレー『ミルリトン』開店。

1886 久米桂一郎、パリに留学する(1893年帰国)。詩人ジャン・モレアス、『ル・フィガロ』別冊に文学における象徴主義宣言を掲載。黒田清輝、山本芳翠らに画家修行を勧められ、ラファエル・コランに師事。アカデミー・コラロッシに入校する。山本芳翠渡仏期の作品を種々だ欧彷徨、日本への回航中消息不明となる。アメリカでフランスから贈られた「自由の女神像」の除幕式が行われる。第8回印象派展(最後の印象派展)開催。ルドンもこの展示に初出品する。印象派グループ解散。すべてに参加したのはカミーユ・ピサロ一人だった。この年、雑誌『パリ・イリュストレ』で日本特集。

1887 ロートレック、コルモンのアトリエを去る。

1888 バルセロナ万国博覧会開催。ポール・セリュジエ、ポンタヴェンで出会ったゴーギャンに影響を受け、パリでアカデミー・ジュリアンの仲間モーリス・ドニ、ピエール・ボナールらとナビ派を結成する。ビング、『芸術の日本』を刊行。

1889 フランス革命百年記念パリ万国博覧会開催。エッフェル塔竣工。万博会場近隣のカフェ・ヴォルピーニで「印象主義総合主義グループ展」が開催される。モンマルトルに「ムーラン・ルージュ」開店、ロートレックの絵画が飾られる。

1890 ピュヴィ・ド・シャヴァンヌら、国民美術協会設立。国立美術学校で日本版画展が開催される。

1891 ゴーギャン、タヒチへ渡る。ロートレック、最初のポスター《ムーラン・ルージュ、ラ・グーリュ》が大成功を収める。シベリア鉄道建設、フランス資本を導入。

1892 パリ市庁舎再建、シャヴァンヌやコランが装飾に携わる。

1893 アンドレ・マルティ、創作版画集『レスタンプ・オリジナル』刊行(95年まで)、ロートレック、ルドン、ゴーギャン、ナビ派、ピサロ、シャヴァンヌらが参加する。ゴーギャン、タヒチから帰国し連作版画『ノア・ノア』の制作を始める(1894年まで)。黒田清輝《朝妝》、フランスの国民美術協会が開催するサロンに入選する。シカゴ万国博覧会開催。

1894 リュミエール兄弟、複合映写機シネマトグラフを発明。クーベルタン男爵が「オリンピック復興」を提唱、国際オリンピック委員会が設立される。パリ―ルーアン間で自動車レースが開催。反ユダヤ主義感情を背景にドレフュス事件発生、のちにエミール・ゾラ、『我糾弾す』を寄稿する。パリのデュラン=リュエル画廊でルドンの大回顧展開催。

1895 ロシア、ドイツ、フランスが日本に対し遼東半島返還を要求。ビング、画廊「アール・ヌーヴォー」を開店。ロートレック、パリの国立美術学校開催の「石版画百年展」に出品。ゴーギャン、再びタヒチへ向かう。物理学者レントゲンがX線を発見する。

1896 アテネで第1回近代オリンピック開催。物理学者・化学者ベクレルがウラン放射能を発見する。ロートレック、石版画集『彼女たち』発表。

1897 ブリュセル万国博覧会開催。「シャ・ノワール」閉店。ルドン、「黒」の作品の創造の場だった荘園ペイルルバードが他人の手に渡る。

1898 アフリカ植民地政策をめぐりフランスとイギリスが衝突(ファショダ事件)。物理・化学者キュリー夫妻、ラジウムとポロニウムを発見する。

1899 ロートレック、アルコール中毒等により入院する。

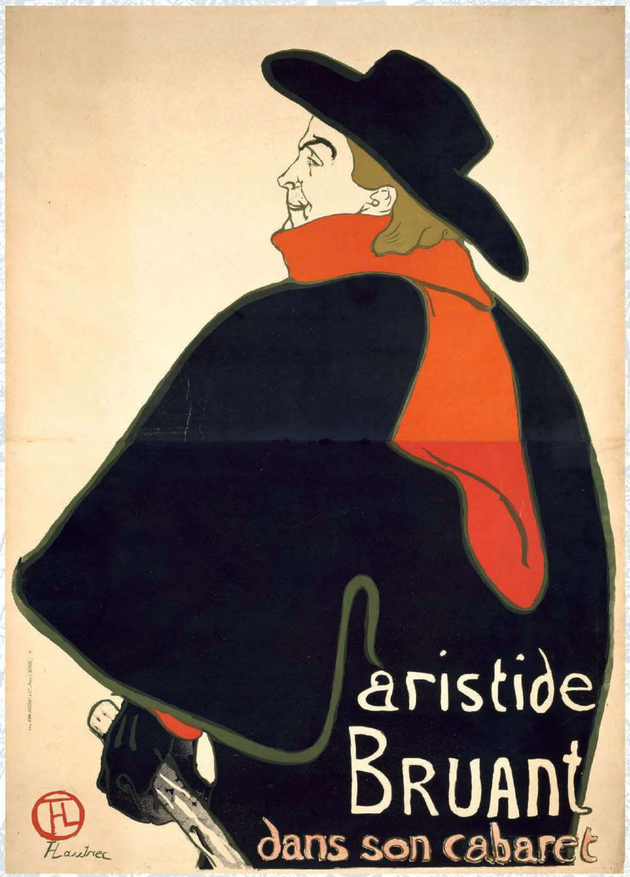
1900 浅井忠、渡仏する(1902帰国)。滞独中の和田英作が文部省留学生としてフランスでコランに師事する。パリ万国博覧会開催、グラン・パレやプティ・パレが建設される。特別展「フランス美術100年展 1800-1889」ではモネ、ルノワール、ドガ、シスレー、セザンヌ、ルドンらの作品も展示される。日本からも黒田清輝をはじめ各分野大挙して出品する。ロイ・フラー、川上音二郎一座をパリに招待し、フラーの劇場に「マダム貞奴」出演。パリで地下鉄の運行開始。

1901 9月9日、ロートレック没(36歳)。浅井忠、和田英作とグレーに滞在する(1902年帰国)。スウェーデンでノーベル賞が創設される。

さあ、見てごらん。
するとたちまち世界は
(世界は一度にかぎり創造されたわけではない、
独創的な芸術家が出現したのとおなじだけ創造されたのだ)、
われわれの目に、古い世界とはまるでちがって見える、
しかも完全にはっきりと見える。

――マルセル・プルースト、1921年*2

b.



8.

「パリ、活力と進歩の未来の街(……)、パリ、灯台の街、
思索と芸術の両者において、世界を2倍に照らす」
ヴィクトル・ユゴー(1802-1885)のペンは幻を描いているのだろうか。
パリ、灯台の街! その通り(……)
パリは異邦人の心を虜にする。
人は喜びに酔い、光に幻惑される。
パリは長い間、世界を魅了してきたのだ!

――マルティーヌ・シャザルによるユゴーの言葉の引用*3

c.

9.